



山陽特殊製鋼株式会社
代表取締役社長

樋口真哉

「信頼の経営」のもと 社会の発展に 貢献します

経営理念「信頼の経営」を軸として、 健全な事業活動を展開します

当社は、誠実・公正・透明な企業経営を実践して、付加価値を創出し、経済社会の発展を担うとともに、循環型社会の構築と環境保全に注力し、社会と共生する企業を目指しています。これらの取り組みを通じて、「社会からの信頼」、「お客様からの信頼」、「人と人との信頼」という3つの信頼を確立することが、当社の考えるCSRです。

なかでも、ものづくり企業である当社にとって、従業員の「安全と健康」は事業活動の大前提であり全ての基本です。従業員一人ひとりが毎日充実して働き、元気に家庭へ帰っていく、そんな職場づくりにこれからも継続して取り組みます。

全てのステークホルダーの皆様信頼に足る企業と認識していただき、社会との持続的関係を強固にし、その発展に貢献できるよう、たゆまず歩み続けます。

循環型社会の構築のために、 当社が貢献できること

当社は、事業活動の全ての段階において環境の保全に配慮し、循環型社会の構築に貢献することを「環境方針」に掲げています。地球上の資源は有限であり、持続可能な社会を構築することは、現代社会の一員として当然の義務であり、責任です。また、天然資源の乏しいわが国にとって、資源を最大限に活用することは大変重要な課題でもあります。

当社の鋼材事業は、鉄スクラップを主原料としており、金属資源のリサイクルに貢献しています。加えて、部品や金型の長寿命化・軽量化に資する製品群を製造・販売することを通じて、社会の省資源・省エネルギー化促進の一翼を担っています。これらの製品を製造するさまざまな設備も、高品質かつ高効率なものを導入しています。調達から製造の段階、社会に送り出す製品の機能に至るまで、限りある資源を有効に活用し、環境負荷低減に貢献しています。

持続的成長を目指し、 第10次中期経営計画を策定

2014年度から2016年度を実行期間とする第9次中期経営計画では、当事業の中核である鋼材事業の推進に加え、素形材事業に関しては、タイで商業生産を開始、メキシコにおいても現地法人を設立し、世界6極体制確立への取り組みを進めました。金属粉末事業においては、第2粉末工場の建設に着手し、各事業のこれらの取り組みにより、当社ブランドのグローバル化への足掛かりをつくりました。

今後、世界全体としての特殊鋼需要は、新興国経済の発展に伴って自動車など製造業向けの需要が増えていくと考えられます。しかし、国内・海外の特殊鋼メーカー各社における積極的な設備投資や海外メーカーの品質競争力の向上で競争が激化し、汎用品分野ではお客様の現地調達も進展していくものとみられます。また、需要構造の変化も進み、自動車であればEV化が進んでいくでしょう。一方で、自動車以外の分野での特殊鋼需要拡大もありえますので、自ら需要を創出していくことも必要です。

こうした環境認識のもと、当社は2017年度から2019年度を実行期間とする第10次中期経営計画を策定しました。経営理念「信頼の経営」のもと、(1)生産構造改革の実行や鋼材事業・非鋼材事業による安定的な収益の確保等を通じて、盤石な企業体質を確立する。(2)軸受鋼をコアとする品質競争力の強化や研究開発の推進により、技術先進性をさらに追求する。(3)当社ブランド力の源泉であるQCDD(品質・コスト・納期・研究開発)力の強化や認知度のさらなる向上に向けた取り組みにより、「高信頼性鋼の山陽」のグローバルブランド化を推進することで、人・技術・利益の持続的成長を追求していくことを目指しています。今次中期経営計画の実行を通じて、当社の持続的成長を達成するとともに、持続可能な環境、社会の構築に寄与してまいります。

本報告書を通じて、私たちの活動内容をご理解いただき、一層のご支援とご助力を賜りますよう、お願い申し上げます。

〈 第10次中期経営計画 〉

SANYO GLOBAL ACTION 2019 山陽ブランドのグローバル化による 持続的成長の追求

人・技術・利益の持続的成長を追求

事業基盤の強化を通じた盤石な企業体質の確立
研究開発・品質競争力の強化による技術先進性の更なる追求
「高信頼性鋼の山陽」のグローバルブランド化の推進